

SINCE 1889

Company Profile & History

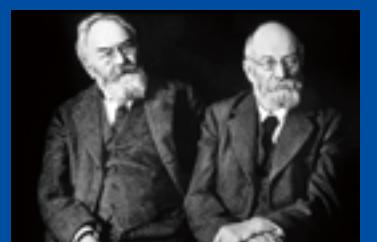


SINCE 1889





BIRTH OF MICHELIN.



The brothers, André and Édouard Michelin.

感動から動きはじめた、兄弟の夢。

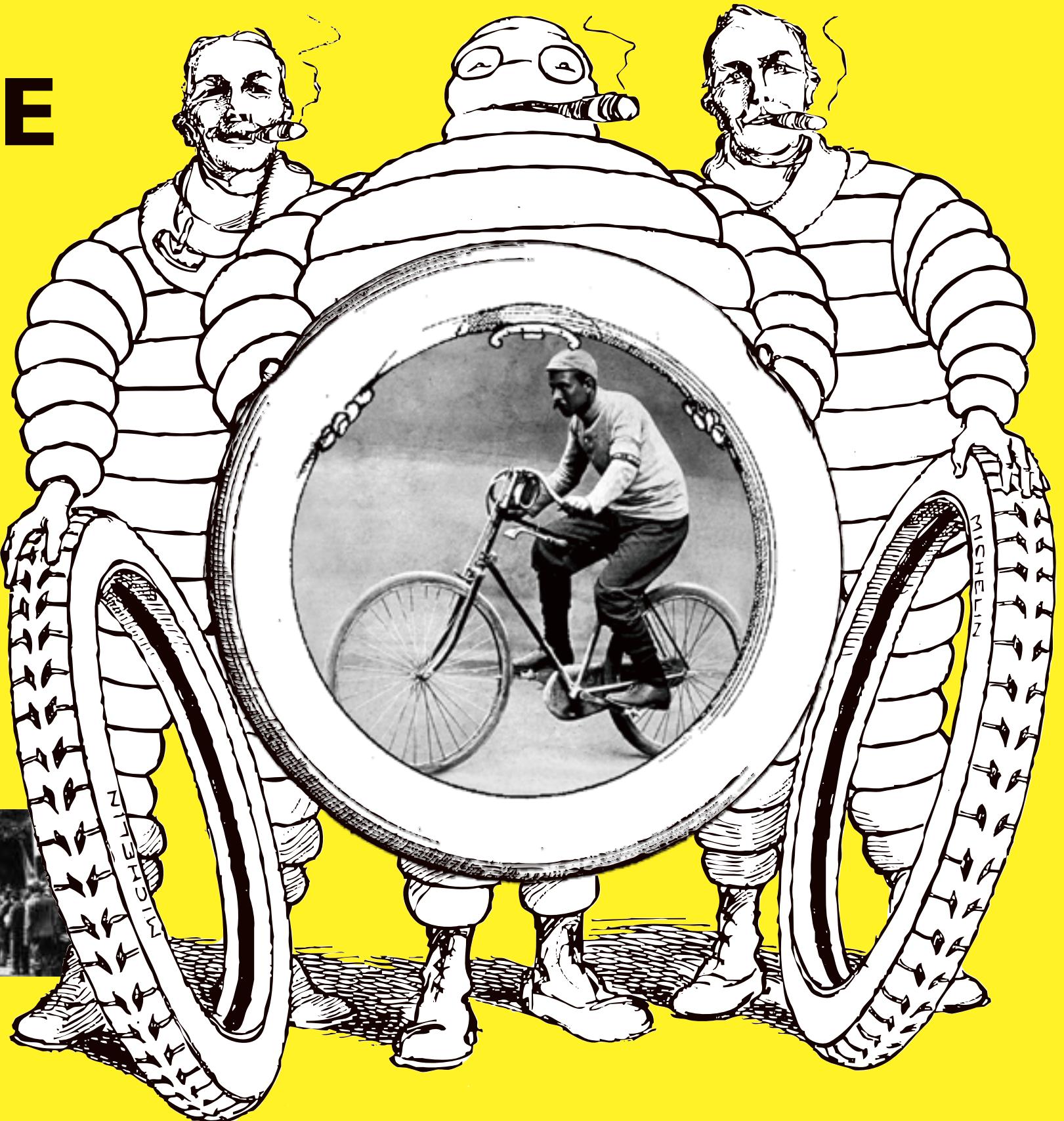
1889年、エンジニアだった兄のアンドレと画家を目指していた弟のエドワールが叔父の経営していた農機具やゴム製品の会社を引き継ぎ、社名をミシュランと改め、ミシュランタイヤの歴史が始まりました。その年、フランスの田舎町クレルモン＝フェランで自転車がパンクして困っていたサイクリストを見過ごせず、一晩かけてタイヤを修理。修理し終わった後、当時まだ珍しかったその空気入りタイヤに乗ったエドワールはその乗り心地に感動しました。より多くの人に広めたいという思いで試作に試作を重ね、2年後に、たったの15分で取り付け可能な空気入りタイヤの開発に成功しました。ミシュランは、創設者である兄弟が空気入りタイヤの乗り心地に感動したその時から、全ての人にA better way forwardを提案するためのイノベーションを続けています。創業者がタイヤに抱いた感動。それがミシュラン社の源。世界中のミシュラン社員の誇りであり原動力です。

DETACHABLE TIRE

THE BICYCLE & ÉCLAIR

世界初、空気入りタイヤでの挑戦。

ミシュラン兄弟は、1891年に開発した着脱可能なタイヤを世に広めるため、初めて自転車の“パリ-ブレスト間往復レース”に参加。見事、2位と8時間もの大差をつけて1着でゴールし、世にミシュランの名を知らしめました。更に重量のある自動車にも空気入りタイヤをつけることができることを証明しようと、1895年には自動車のレース“パリ-ボルドー間往復レース”に参戦。当時まだ空気入りタイヤの装着に抵抗があった車両メーカーからのサポートは得られず、自ら組み立てた“エクレール号”で参戦します。この時、自動車が世界で初めて空気入りタイヤを装着して走ったのです。



MONUMENT DE PARIS

LA TOUR EIFFEL

これまで創刊されたガイドブックを積み上げた時の高さは
なんとエッフェル塔の100倍

100



ドライブをもっと楽しく。
その願いが1冊のガイドに。

そんなミシュラン兄弟はレースの場以外にも
タイヤに関する取り組みを考え始めます。
車の故障や燃料補給、そしてタイヤのパンク
など、ミシュラン創業当時ドライブにはトラブル
がつきものでした。そこで兄弟はより遠くまで
快適に楽しくドライブができるように、タイヤ
の正しい使い方や修理方法、各都市の駐車場
やガソリンスタンド、車の整備場、ドライバー
が長旅から体を休めるための宿泊施設や
レストランなど、ドライブに欠かせないさまざま
な情報をまとめた赤い表紙の小さな冊子を作
りました。この小さな赤い冊子が今では
世界各国のレストランや宿泊施設を紹介する
“ミシュランガイド”に進化しました。100年も
前にタイヤメーカーのミシュランがまだ遠出を
するには不安を抱いていたドライバーに配り
始めたのがはじまりだったのです。



THE
“RED GUIDE”

レッド・ガイド

***MICHELIN Guide
was born to offer
driving pleasure.***



【ミシュランガイドの星の意味】

★★★: そのため旅行する価値がある卓越した料理 ★★: 遠回りしても訪れる価値のある素晴らしい料理 ★: そのカテゴリーで特に美味しい料理

THE “GREEN GUIDE”

グリーン・ガイド

MICHELIN Green Guide is a perfect travel companion.

見知らぬ場所への好奇心をかきたてる、
もうひとつのガイドブック。

そして兄弟は、ミシュランガイドよりも訪れる土地をよりよく理解し、

充実した旅を楽しめるような情報を満載した

新しいガイドの作成にも取り組みました。

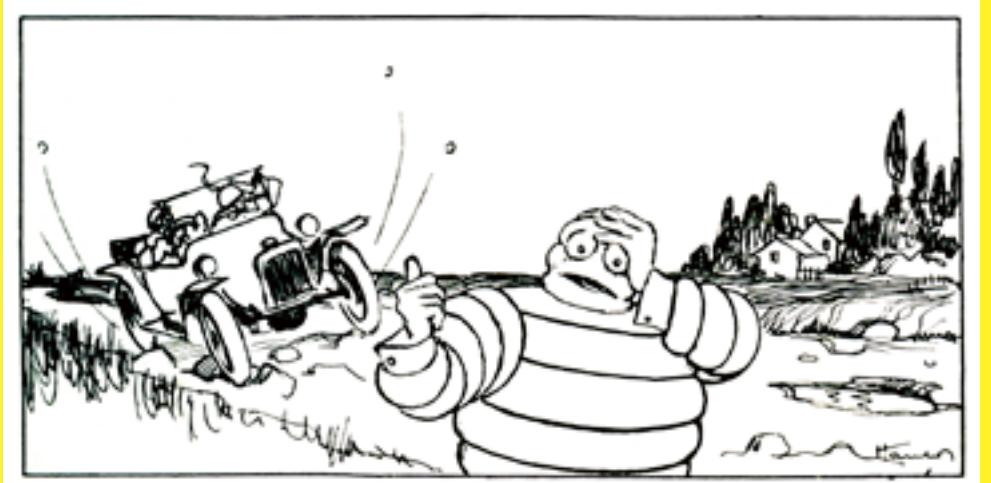
今では緑色の表紙で旅行者に親しまれる旅行ガイド、

“グリーン・ガイド”の第1冊目となる

“フランス・ブルターニュ編”は、1926年に発行されます。

今ではミシュラン・グリーンガイド・ジャポンも発行され、

世界中の好奇心に満ちた旅行者に利用されています。



Roads without signs.

モビリティの第一歩は、標識をつくることだった。

1908年、“道程作成”部を立ち上げ、旅行の旅程表を無料で作成するサービスを行ったり、1910年には“道路地図”部を設立したりと、ドライバーのためにさまざまなサービスを提供してきました。しかし、当時フランス国内の道路標識は整備されておらず、せっかくのサービスも水の泡。1912年に署名運動により国に働きかけるも実現せず、ついにミシュランは自ら道路標識の整備を始めます。気の遠くなるようなこの活動はなんと1970年代までフランス全土で続けられました。

このミシュラン社が設置した標識は、人々の道しるべとして大変重宝され、今でも古い町で目にすることができます。それは、楽しく安全に、安心できる旅をしてほしいというミシュランの想いがカタチになったものなのです。

ROAD SIGN

【グリーンガイドの星の意味】

★★★:わざわざ旅行する価値がある ★★:寄り道する価値がある ★:興味深い





FROM -50 TO 250

Technology supporting air travel.

過酷すぎる条件で安全を担う、空のミシュラン。

航空機用タイヤは、離陸時にはF1車両並みのスピードで走行し、更に離陸時のタイヤ表面温度250°Cからフライト時の上空気温-50°Cに耐えられる強靭な設計になっています。



A large white Boeing 747 aircraft is shown from a low angle, parked on a tarmac. The aircraft's white fuselage features a blue vertical stabilizer with a red, white, and blue horizontal stripe. The letters 'GH' are visible on the front landing gear door. The sky is clear and blue.

To the sky.



働く人や作物が育つ土にまで
やさしいタイヤを。

ミシュランのタイヤ開発の考え方には、現場への理解が大きな要素となっています。農業機械用タイヤは、ミシュランの高い技術を駆使し、低空気圧での走行が可能です。これにより土の踏み固めを抑えることができ、豊かな土地に欠かせないミミズなどの生物が生きやすく、作物の根が張りやすい柔らかい土壤を作り、農作物の収穫量向上に貢献します。更に振動を抑え作業者の体への負担も軽減します。フランスの研究所に農家出身の研究員が従事し、更にスペインのタイヤテストセンターで実際の農家と共同テストなどを行っているミシュランだからこそできる、土、農作物、そして人に優しいソリューションを今後も提案し続けます。

SOIL FRIENDLY



A large yellow Komatsu articulated hauler truck is shown operating in a quarry. The truck is positioned in the foreground, facing towards the right. It has a large dump body with a yellow canopy and a black lower section. The number '63' is prominently displayed on the side of the dump body. The truck is equipped with large, rugged tires. In the background, there are massive piles of rock and gravel, with a steep, rocky mountain face covered in patches of snow. The sky is clear and blue.

Diameter up to 4m.

最大直径4mにもおよぶ、タフで屈強なタイヤ。

Outer space mobility projects that look to the future.

地球の旅から、宇宙へと夢をのせて。

ミシュランのモビリティへのサポートは地球上にとどまりません。ミシュランはNASAの長年のパートナーとして、スペースシャトル用のタイヤを20年以上にわたり供給し続けました。

2009年には、NASAの次世代月面探査機に専用設計のホイール、“ミシュランルナホイール”を開発。ミシュラン独自技術の空気を必要としないタイヤ、“Tweel(トゥイール)”を基礎に開発した“ミシュラン・ルナホイール”の織布製トレッドは、きわめて低温の環境でも月面探査車のトラクションを維持し、更にタイヤの柔軟性と一定の面圧を維持することができるので、もろい地形やクレーターでの走行も可能になりました。ミシュランは宇宙開発への躍進にも大きく貢献しているのです。

1995.

ミシュランタイヤを装着したスペースシャトルが飛行。



With NASA.





One tire footprint,
each the size of a postcard.

宇宙であっても地上であっても同じ。
タイヤは唯一“地”と接する。

この数字が示すものが一体なんだかわかりますか？



ハガキ1枚との関係。

乗用車とそれが走る地面が唯一コンタクトするのはタイヤ。
その“コンタクトパッチ”と呼ばれる接地面は、なんとタイヤ
1本あたりたったのハガキ約1枚分。^{*}車の動きを路面に
伝えるのはもちろんのこと、雨や雪の路面での排水性を確保
するなど、安全性において非常に重要な部分。この唯一
接する部分こそが、ドライビングにおいてタイヤが性能を
発揮する、まさしく技術の結晶でもある部分なのです。

*タイヤ幅175~225mmの乗用車用タイヤ

100 × 148



技術は極限で磨かれる。

ミシュランは、最新の技術を
レースという高次元での戦いの中で競わせることで、
その結果を市販用タイヤの開発に余すところなくフィードバックし、
より良いタイヤの開発につなげていきます。

着脱可能な空気入りタイヤを世に知らしめるために、1891年に初めてレースに参戦してから、
ミシュランはレースに積極的に参加することで技術を証明してきました。
ミシュランがレースを重要視する姿勢はこれからも変わりません。

MICHELIN
tire

TRACK TO STREET



A close-up photograph of a Michelin racing tire's tread pattern. The Michelin man logo is visible on the side wall. The words "MICHELIN" and "PIRELLI" are printed on the side walls.

**WINNER OF MANY CHAMPIONSHIPS
AND COMPETITIONS.**

AUTOMOBILE RACING

日本におけるチャンピオンを獲得した4輪レース

- 1995年 全日本ツーリングカー選手権 スティーブ・ソバー(BMW 318i/BMWチームシュニッツァー)
- 1996年 全日本ツーリングカー選手権 服部 尚貴
(ホンダ・アコード/JACCS MOONCRAFT MOTOSPORTS PROJECT)
- 1998年 全日本ツーリングカー選手権 関谷 正徳(トヨタ・セリカ/TOYOTA TEAM TOM'S)
- 2002年 全日本GT選手権 GT300クラス 新田 守男/高木 真一(トヨタ・MR-S/ARTA with A'PEX)
- 2005年 SUPER GT GT300クラス 山野 哲也/佐々木 孝太(トヨタ・MR-S/TEAM RECKLESS)
- 2006年 スーパー耐久シリーズ ST1クラス 田中 哲也/新田 守男/高木 真一(ポルシェ911 GT3/ARTA TEAM DENAG)
- 2007年 SUPER GT GT300クラス 大嶋 和也/石浦 宏明(トヨタ・MR-S/apr)
- 2008年 SUPER GT GT300クラス 星野 一樹/安田 裕信(日産・GT-R/MOLA)
- 2011年 SUPER GT GT500クラス 柳田 真孝/ロニー・クインタレッリ(日産・GT-R/MOLA)
- 2012年 SUPER GT GT500クラス 柳田 真孝/ロニー・クインタレッリ(日産・GT-R/MOLA)

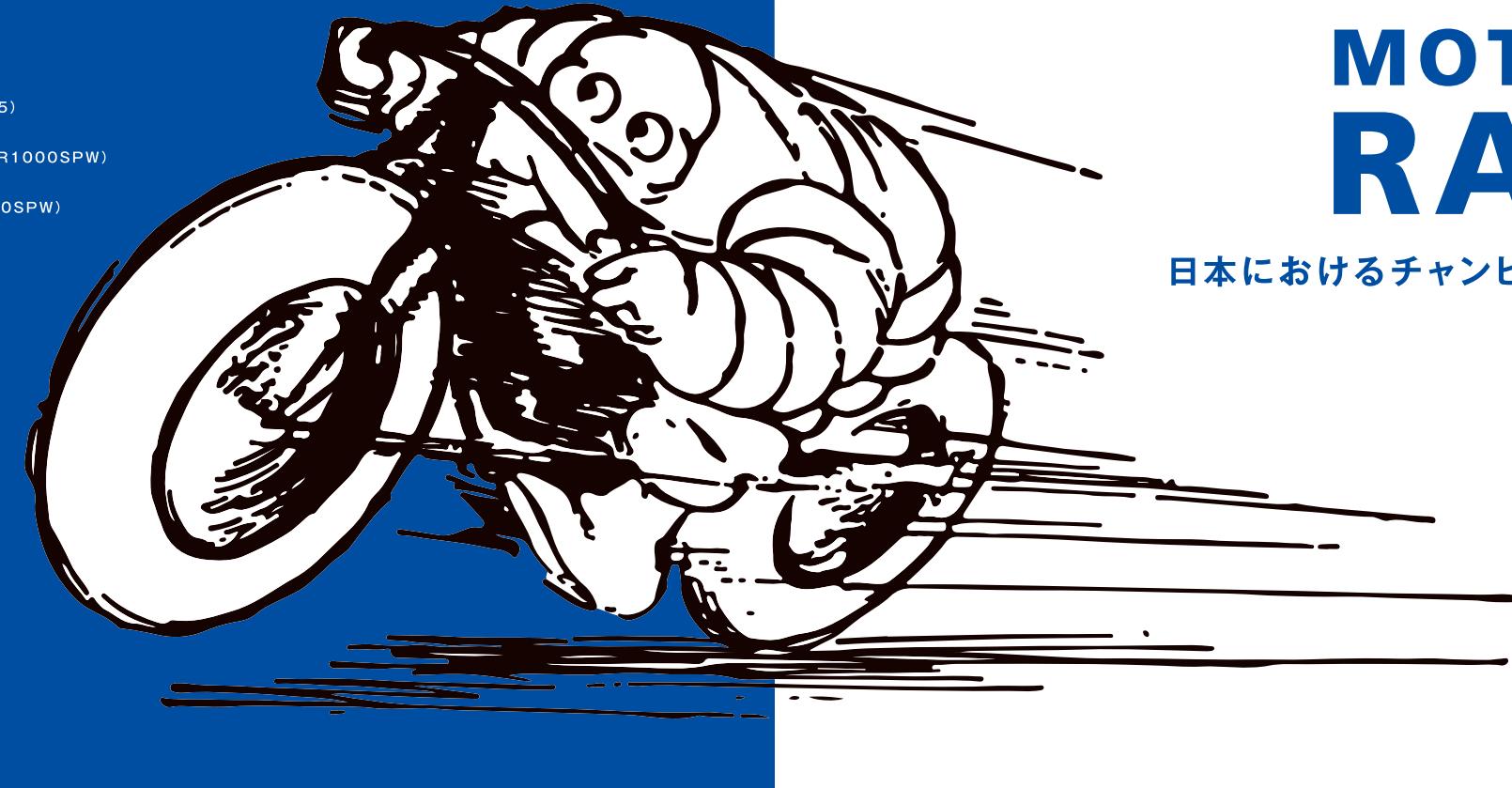
※敬称省略

日本でのレースサポート歴

- 1994年~1998年 全日本ツーリングカー選手権
- 1999年~2004年 全日本GT選手権
- 2000年~2006年 アルテッツアレース
- 2002年~ ポルシェ カレラカップ ジャパン
- 2005年~ SUPER GT
- 2006年~2008年 スーパー耐久シリーズ
- 2007年~2008年 Japan Le Mans Challenge

1983年	鈴鹿8時間耐久ロードレース エルブ・モナー／リカルド・ユーピン（スズキ・GS1000R）
1986年	鈴鹿8時間耐久ロードレース ワイン・ガードナー／ドミニク・サロン（ホンダ・RVF750）
1986年	全日本ロードレース選手権TT-F1クラス 辻本 聰（ヨシムラ・スズキGSX-R750）
1987年	鈴鹿8時間耐久ロードレース マーチン・ウィマー／ケビン・マギー（ヤマハ・YZF750）
1987年	全日本ロードレース選手権TT-F1クラス 大島 行弥（ヨシムラ・スズキGSX-R750）
1989年	鈴鹿8時間耐久ロードレース ドミニク・サロン／アレックス・ピエラ（ホンダ・RVF750）
1989年	全日本ロードレース選手権TT-F1クラス ダグ・ボーレン（ヨシムラ・スズキGSX-R750）
1989年	全日本ロードレース選手権TT-F3クラス ダグ・ボーレン（ヨシムラ・スズキGSX-R400）
1990年	鈴鹿8時間耐久ロードレース 平 忠彦／エディ・ローソン（ヤマハ・YZF750）
1991年	鈴鹿8時間耐久ロードレース ワイン・ガードナー／マイケル・ドゥーハン（ホンダ・RVF750）
1992年	鈴鹿8時間耐久ロードレース ワイン・ガードナー／ダリル・ビーティー（ホンダ・RVF750）
1992年	全日本ロードレース選手権GP500 ダリル・ビーティー（ホンダ・NSR500）
1995年	鈴鹿8時間耐久ロードレース アーロン・スライト／岡田 忠之（ホンダ・RVF/RC45）
1995年	全日本ロードレース選手権スーパーバイク 青木 拓磨（ホンダ・RVF/RC45）
1996年	鈴鹿8時間耐久ロードレース コーリン・エドワーズ／芳賀紀行（ヤマハ・YZF750）
1996年	全日本ロードレース選手権スーパーバイク 青木 拓磨（ホンダ・RVF/RC45）
1997年	鈴鹿8時間耐久ロードレース 伊藤 真一／宇川 徹（ホンダ・RVF/RC45）
1998年	鈴鹿8時間耐久ロードレース 伊藤 真一／宇川 徹（ホンダ・RVF/RC45）
1998年	全日本ロードレース選手権スーパーバイク 伊藤 真一（ホンダ・RVF/RC45）
1999年	鈴鹿8時間耐久ロードレース 岡田 忠之／アレックス・バロス（ホンダ・RVF/RC45）
2001年	鈴鹿8時間耐久ロードレース バレンティーノ・ロッシ／コーリン・エドワーズ（ホンダ・VTR1000SPW）
2002年	鈴鹿8時間耐久ロードレース 加藤 大治郎／コーリン・エドワーズ（ホンダ・VTR1000SPW）
2004年	鈴鹿8時間耐久ロードレース 宇川 徹／井筒 仁康（ホンダ・CBR1000RRW）
2004年	全日本ロードレース選手権JSB1000 井筒 仁康（ホンダ・CBR1000RRW）
2005年	鈴鹿8時間耐久ロードレース 清成 龍一／宇川 徹（ホンダ・CBR1000RRW）

※敬称省略



MOTORCYCLE RACING

日本におけるチャンピオンを獲得した2輪レース



MICHELIN TOTAL PERFORMANCE

すべての性能を求めて。

車と路面の唯一の接点であるタイヤには、たくさんの役割が求められます。安全なドライビングや安心感を持って走るために制動力とグリップ。運転することを楽しめ、疲れを感じさせない快適さや静粛性。そして、性能を持続させるための耐久性。さらに、環境性能。

ある一つの性能に秀でたものを作るのはなく、ドライビングに必要な全ての性能を高い次元で実現する。どの性能も水準以上のパフォーマンスを備え、かつ、それぞれが調和していること。ミシュランはこれからもお客様が本当に必要とする、トータル・パフォーマンスに優れたタイヤを追求していきます。

MATERIALS OF TIRE

OVER 200



MATERIALS OF TIRE

OVER 200



Materials of tire

200以上もの素材を駆使して生み出される高性能。

ミシュランは、旅行における地図・ガイドブックやライセンスビジネスも行っていますが、
実のところほぼ100%タイヤだけを作っているメーカーです。
そんなミシュランが使う厳選した素材はなんと200以上。

OVER 200



タイヤは、天然ゴム、合成ゴム、カーボンブラック、シリカ、テキスタイルや補強剤、化学添加済などの200以上もの素材で形成された複雑な製品です。



1992年にミシュランは新たなコンパウンド、シリカ(二酸化珪素)を配合することで、ウェット路面でのグリップ力や摩耗性能を犠牲にすることなく、転がり抵抗を大幅に低減することに成功しました。今ではあたりまえになった低燃費タイヤはこの時生まれたのです。

A large industrial tire is shown in the process of being manufactured. The tire is mounted on a massive, dark, circular metal frame. The frame has several holes along its top edge and features the text "12 R 22.5" and "INTERHDIN" embossed on its side. The tire itself is a light-colored, ribbed tread pattern. In the background, there are red support structures and a yellow wall with a grid pattern.

Site of production.

より良い製品への追求を妥協しない、
世界中で活躍するミシュランのプロフェッショナル。

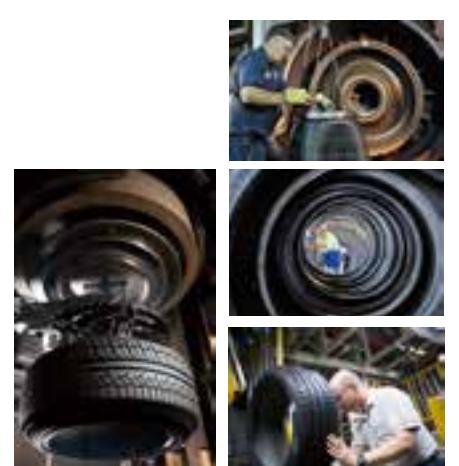
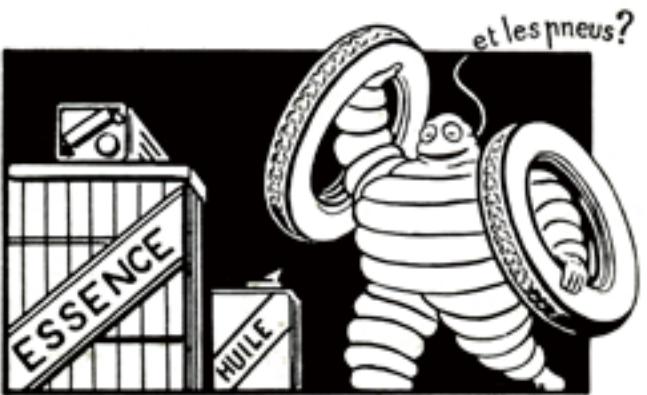
Employees: 111,200 people

グループ従業員、111,200人。

ミシュランタイヤの従業員の数は日本のちょっとした
地方都市の人口です。特に研究・開発部門に優秀な人
材を多く抱えるミシュランだからこそ常にイノベーション
をおこし、お客様に“次”を提案し続けられるのです。

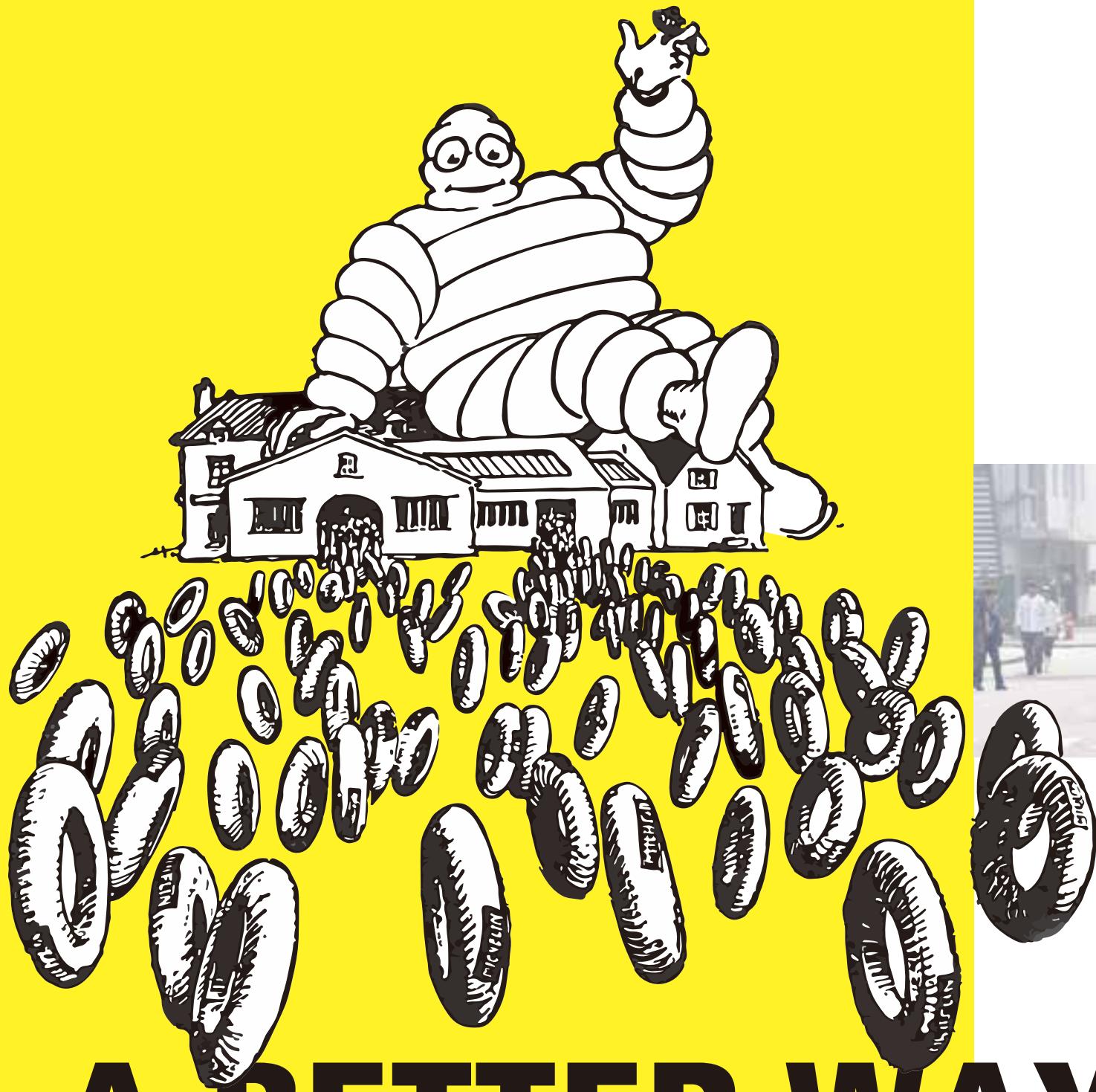


17カ国における67カ所の製造拠点がミシュラン
のタイヤ製造の現場です。自転車から航空機の
タイヤまであらゆる種類のタイヤを製造し、170カ国
で販売活動を展開しています。また、旅行ガイド、
ホテル・レストランガイド、地図、ロードアトラスを
発行するとともに、電子モビリティサポートサービス
のViaMichelin.comを提供しています。
常にイノベーティブな製品を生みだす研究・開発部
門は、ヨーロッパ、アメリカと、ここ日本の群馬県
太田市にある3つのR&Dセンターで、6,000人
ものスタッフが、各工場のサポート、様々な分野の
基礎研究、そして次世代タイヤの開発をおこなって
います。





The challenge continues ...



A BETTER WAY FORWARD

モビリティは、人と経済が発展していくために欠かすことのできない大切なファクターです。ミシュラン兄弟が初めて空気入りタイヤに乗った時に感じたあの感動。それがミシュランの基礎である“*A better way forward*”です。より遠くに、より安全に快適にそして最適なコストで人や物を運ぶ、そのようにモビリティに貢献することが、私たちの責任であると同時に、誇りであり、希望であり、よろこびであり、ミシュランの未来なのです。



ABOUT NIHON MICHELIN TIRE



会社紹介

東京オリンピック開幕に合わせて、浜松町・羽田空港間に新設されたモノレールに、ミシュランスチールラジアル“X”タイヤが採用された1964年から日本での販売が正式に始まりました。1975年に日本ミシュランタイヤ株式会社の前身である日本エックスタイヤ販売株式会社を設立し、日本市場におけるプレゼンスを着実に高めてきました。

1991年には、グループの3大研究施設の1つ、日本とアジア市場向けのタイヤの研究・開発とテストを行うR&Dセンターが群馬県太田市に誕生します。

今ではポビュラーなスタッドレスタイヤやエコタイヤなども、ミシュランは時代に先駆けて日本市場に導入してきました。そして今でも高い評価をいただいている。これからもミシュランはタイヤ業界の最前線で、日本の未来にふさわしいタイヤ研究と開発そしてサービスを展開していきます。

事業内容

タイヤ

市販ならびに直需市場向け製品の輸入、販売、マーケティング、サービス

-ミシュラン、BFグッドリッチブランドの乗用車用タイヤ

-ミシュランブランドの二輪車用タイヤ

-ミシュランブランドのトラック・バスタイヤ及びモノレール用タイヤ

-ミシュランブランドの鉱山用、建設機械用、産業用タイヤ

-ミシュランブランド、クレベールブランドの農耕用タイヤ

-ミシュランブランドの航空機用タイヤ

日本・アジア、及び世界に向けたミシュラン、BFグッドリッチブランドタイヤの研究・開発

ミシュランガイド

2007年11月、アジア初のミシュランガイド「ミシュランガイド東京2008」を発行しました。日本語版の初版12

万部は発売後4日間でほぼ完売し追加で15万部印刷するなど大きな反響をよびました。

初版以来、ミシュランガイドの使命は変わりません。常に読者の旅の友となることです。伝統的な旅館から最先端のホテル、フランス料理から居酒屋まで、最良の宿泊施設及び飲食店をご提案しています。

ミシュラン・ライフスタイル・リミテッド



ミシュラン・ライフスタイル・リミテッドは、ミシュランブランドが消費者に身近な存在となるように、そしてより広い分野で展開することでさらに認知度を高めるために、2000年に設立されました。日本では、ミシュランを体現するキャラクターであるミシュランマンからインスピレーションを得た雑貨・コレクショングッズのカテゴリーで展開しています。2012年には、ミシュランタイヤの歴史と深い結びつきのある自転車のコレクションを販売するなど、身近でミシュランブランドを体感してもらえるような製品を今後も皆さまにお届けします。

会社名	日本ミシュランタイヤ株式会社
代表取締役社長	ペルナール・デルマス
資本金	1億円
従業員数	約750名
設立	1975年6月
所在地	〒163-1073 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー13F

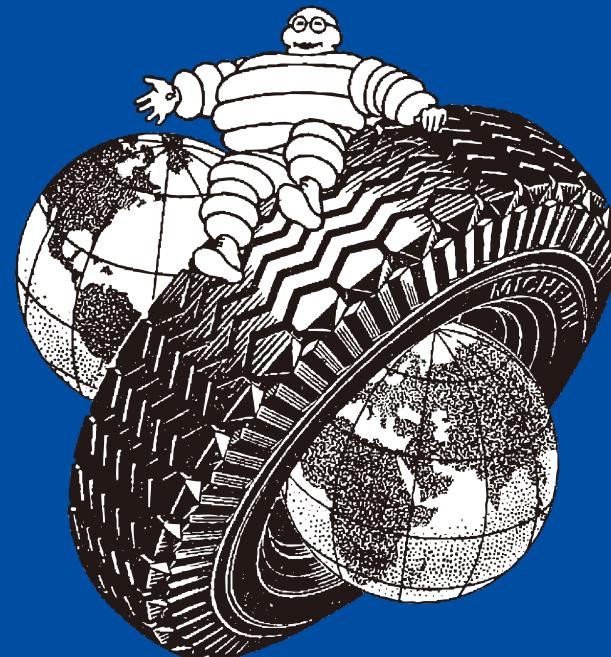
日本ミシュランタイヤ株式会社 太田サイト

所在地 〒373-8668 群馬県太田市植木野町880

HISTORY OF

MICHELIN GROUP

沿革:ミシュラングループ



- 1832 ミシュランの前身となる農業機械とゴム製品を製造する会社設立
- 1889 ミシュラン兄弟が経営に加わり、社名をミシュランに改める
- 1891 自転車用の着脱可能なタイヤを開発、“パリ・ブレスト間往復レース”で実証
- 1895 初の空気入りタイヤ装着自動車 “Éclair(エクレール)” 号で“パリ・ボルドー間往復レース”完走
- 1898 ミシュランのコーポレートキャラクター “ミシュランマン” 誕生
- 1899 ミシュランタイヤを装着した電気自動車 “Jamais Content” 号が世界初時速100kmの壁を突破
- 1900 最初のミシュランガイド刊行
- 1908 道程作成部を開設し、無料の旅行道路行程作成サービスを開始
- 1908 トラックやバスの普及のきっかけともなる複輪タイヤの考案
- 1929 鉄道用空気入りタイヤ “Micheline(ミシュリース)” 発表
- 1931 道路標識を製造開始しのちにフランスで設置
- 1946 ラジアルタイヤに関する特許を取得
- 1951 パリの1番地下鉄に初めて空気入りタイヤを装着
- 1952 初のトラック用ラジアルタイヤを発売
- 1959 初の建設機械用ラジアルタイヤを発表
- 1965 クレルモンフェラン北部にラドゥー研究開発テストセンターを開設
- 1979 F1世界選手権でミシュランタイヤを装着したフェラーリがタイトルを獲得
- 1981 初の航空機用ラジアルタイヤ “Air X” を発表
- 1984 初の二輪用ラジアルタイヤを開発(発売開始は1987年)
- 1994 省燃費を実現するタイヤ “Michelin Energy” シリーズ発表
- 1995 ミシュランタイヤを装着したスペースシャトルが飛行
- 2003 一定の低空気圧で走行可能な新設計農業機械用タイヤ “XeoBib” を開発
- 2005 バンクしない空気のいらないタイヤ “Tweel” をコンセプトタイヤとして発表
- 2009 NASAの次世代月面探査車に “Michelin Lunar Wheel(ミシュラン・ルナホイール)” 採用

HISTORY OF

NIHON MICHELIN TIRE

沿革:日本ミシュランタイヤ



- 1964 ミシュランのスチールラジアル “X” を装着したモノレールが浜松町-羽田空港間で開通
- 1975 日本エックススタイヤ販売株式会社(日本ミシュランタイヤ前身)設立
- 1978 日本初の新車装着タイヤデビュー
三菱ミラージュに「XZX」が採用。同じ時期に日産スカイライン、フェアレディZなどからも指名を受ける。
- 1980 建設機械用タイヤ日本デビュー
高知県・福村ダムの建設工事で、ミシュランの建設機械用タイヤ「18.00R33 XRB」が活躍。
- 1982 スタッドレスタイヤを日本で初めて販売
まだスパイクタイヤ全盛だった時代に、ミシュランはスタッドレスタイヤ「XM+S100」を発売。
「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律」が施行される10年前からスタッドレスタイヤを推進してきた。
- 1982 大阪新交通にミシュランタイヤ装着
大阪南港の新交通「ニュートラム」に、補助輪(中子)を内蔵したタイヤ「XZETL」が採用され、
1981年の開通より課題となっていた騒音や乗り心地の改善に貢献。
- 1989 ミシュランオカモトタイヤ設立
- 1990 日本向けゼロから開発された初のタイヤ「FIZZAROW」が登場
- 1991 ミシュランタイヤをANAが採用
日本で初めてミシュランのラジアルタイヤ「AIR-X」を装着した航空機(エアバスA320)が初フライト。
- 1991 日本にアジアの研究開発センター誕生
- 1993 転がり抵抗を低減し省燃費を実現した初のグリーンタイヤ「MXGS」を発売
- 1994 JTCCで日本の4輪レースにデビュー
- 1997 鈴鹿8耐で6位まで独占
- 1998 日本初のトラック・バス用低燃費オールシーズンタイヤ「XJD4 Green」発売
- 2006 トラック・バス用オールシーズンタイヤ「XJE4 MIX ENERGY」が「グッドデザイン賞」受賞
- 2007 「ミシュランガイド東京2008」発行
- 2008 トラック・バス用シングルタイヤ「X One」が「グッドデザイン賞」受賞
- 2009 タイヤ業界初の「エコ・ファースト企業」認証を取得
- 2010 「リグループ」が「リトレッド」と同様にグリーン購入法の「特定調達品目」に指定
- 2012 ミシュランライフスタイルから「Vélo MICHELIN」シリーズ登場
- 2012 J.D.パワー アジア・パシフィック2012年日本OEタイヤ顧客満足度調査SM
<バッセンジャーカーセグメント>1位受賞
- 2013 J.D.パワー アジア・パシフィック2013年日本リプレイスタイヤ顧客満足度調査SM
<ミッドサイズセグメント>1位受賞
- 2014 J.D.パワー アジア・パシフィック2014年日本冬用タイヤ顧客満足度調査SM
11年連続1位受賞

ミシュランのスポーツマン

ビバンダム

日本ではミシュランマンでおなじみのミシュランのコーポレートキャラクターは1898年に、兄弟が積み上げられたタイヤの山からインスピレーションを得て誕生。当時まだ高価商品だったタイヤはそれぞれが白いクレープ紙で包まれていたことから彼の体は白いといわれている。これからもミシュランのメッセンジャーとして各国を飛び回ります。

BIBENDUM



ヌンク・エスト・ビバンダム

「NUNC EST BIBENDUM」

ミシュランマンが誕生した最初のポスターのキャッチコピーで、
“今こそ飲み干すとき”という意味。
「飲み干す」、つまり耐久性があり、問題はおこらないという、
パンクにも強い印象を感じさせるこの言葉が、
ビバンダムの名前の由来。

